

# 平成 28 年度八王子市青少年問題協議会

## 第 3 回検討会 会議録

名称： 平成 29 年度八王子市青少年問題協議会第 3 回検討会

日時： 平成 29 年 1 月 27 日（金）午前 10 時～12 時

場所： 八王子市役所本庁舎 7 階 701 会議室

### 次第

- 1 挨拶
- 2 第 2 回検討会会議録（案）について（確認）
- 3 平成 29 年度重点目標リーフレット第 2 回検討会における主な指摘事項及び修正案について
- 4 平成 29 年度八王子市青少年健全育成推進区域の指定について
- 5 八王子市青少年問題協議会 副会長の選任について
- 6 八王子市青少年健全育成基本方針平成 28 年度重点目標に関する取組紹介について
- 7 情報提供
  - (1) 最近の青少年の非行情勢について
  - (2) 第 2 回 中学生ミーティングについて
  - (3) その他

**【出席】**

八王子市青少年対策地区委員会連絡会代表	中原 教智	委員
八王子地区保護司会	内田 實	委員
八王子市内私立中学高等学校校長代表	島田 浩行	委員
八王子市立中学校長会代表	清水 和彦	委員
八王子市立中学校PTA連合会代表	加地 弘子	委員
八王子市立小学校PTA連合会代表	川島 弘嗣	委員
八王子警察署生活安全課少年第一係	篠原 健志	委員
高尾警察署生活安全課少年第一係	古山 晴幸	委員
八王子市子ども家庭部子どものしあわせ課長	平塚 裕之	委員
八王子市子ども家庭部		
子ども家庭支援センター館長	辻井 睦	委員
八王子市生活安全部防犯課長	福島 義文	委員
八王子市子ども家庭部児童青少年課長	渡邊 聡	委員 座長

出席 12 名

(事務局) 子ども家庭部児童青少年課

中山、若林、黒多

**【配布資料】**

- (1) 平成 28 年度八王子市青少年問題協議会第 3 回検討会 次第及び資料
- (2) 別紙 1 第 2 回検討会 会議録 (案)
- (3) 別紙 2 「八王子市青少年健全育成基本方針 平成 29 年度 重点目標リーフレット (A3 版)」

# 【議事要点】

## 1. 挨拶

児童青少年課長から挨拶

## 2. 第2回検討会会議録（案）について（確認）

別紙1に基づき事務局から説明

### 【事務局】

こちらは委員の皆様からいただいた修正箇所を基に事務局で訂正した会議録である。8頁・10頁について、春田委員の発言について訂正のご連絡をいただいた。今一度内容をご確認いただき、差支えなければ、この場で第1回検討会会議録を確定するがいかがか。

→委員からの意見等なし。

**第2回検討会 会議録を確定。**

## 3. 平成29年度重点目標リーフレット第2回検討会における主な指摘事項及び修正案について

資料1～4頁に基づき事務局から説明

→委員から意見等なし。

### 決定事項

**検討会としてリーフレット内容について了承。検討会におけるリーフレット案を協議会に提案することとする。**

## 4. 平成29年度八王子市青少年健全育成推進区域の指定について

資料5～6頁に基づき事務局から説明

### 【事務局】

『八王子市青少年の健全な育成環境を守る条例』第5条に基づき、表記区域の指定を行う。推進区域は1地区のみとなる。申請のあった地区としては柵田地区が挙げられる。主な申請内容として、新たな取組として地域と学校の連携による防災訓練・花いっぱい運動、また健全育成標語の表彰や吹奏楽、演劇を行うふれあい柵田祭を開催する予定である。昨年10月にあった第2回青少年対策地区委員会連絡会において、当連絡会としては推進地域として柵田地区を推薦することを決定した。

### 【座長】

柵田地区の新しい取組を事務局から紹介したが、委員の皆様から協議会に諮るにあたってご意見はあるか。

### 【内田委員】

柵田地区は熱心に活動しているので良いのではないか。

【座長】

梶田地区を平成 29 年度八王子市青少年健全育成推進区域として指定し、第 156 回の青少年問題協議会において提案してよろしいか。

【全員】

よい。

#### **決定事項**

**梶田地区を平成 29 年度八王子市青少年健全育成推進区域に、第 156 回の青少年問題協議会にて提案することに決定。**

### **5. 八王子市青少年問題協議会 副会長の選任について**

資料 7 頁に基づき事務局から説明

【事務局】

皆様からご意見を伺う前に、説明させていただく。これまでは、青少対の委員に副会長を兼任していただいた。協議会委員も担われている学識経験者の皆様は、地域や学校で青少年の健全育成に日々実践で取り組まれている。検討会での検討・協議会での検討を踏まえ毎年の重点目標リーフレットは決定し、皆様のおかげで実践的取組はいち早く全市に広がっている。皆様にもこれまでご検討いただいていたが、現在は子どもの対話によるコミュニケーション力の低下、家庭の孤立化が深刻となっている状況である。この状況を打開するには、親同士をつなぐこと、子どもの心の居場所づくり、地域の様々な価値観により子どもの良いところを認めながら健やかに育てていくことが必要である。そのためには、一層地域の力が欠かせないと考える。これらの点を踏まえると、事務局は副会長として、例えば、検討会委員であり、青少対代表でもある中原委員が適任ではないかと考えますが、皆様いかがか。

⇒委員、賛成。

【座長】

皆様の総意を確認した。青少年問題協議会の委員でもある学識経験者の 9 名の皆様の中から、副会長を推薦くださる方はいますか。

【加地委員】

私が推薦者となります。

【座長】

ありがとうございます。

→その他、委員から特に意見等なし。

#### **決定事項**

**副会長の選任について青少年対策地区委員会代表 中原委員を協議会で提案することとした。**

## 6. 八王子市青少年健全育成基本方針平成 28 年度重点目標に関する取組紹介について

資料 8～10 頁に基づき事務局から説明

### 【座長】

青少年問題協議会では回答率 100%で毎回報告をさせていただいている。学校をはじめ、関係団体の皆様にも未回答団体への提出依頼のお声掛けをいただきたい。ご意見・ご質問などあるか。

### 【清水委員】

再提出の依頼はメールで行われているのか。

### 【事務局】

いや、再提出依頼は電話で行っている。

### 【清水委員】

できれば、副校長が回答をしているので、電話ではなく校長・副校長宛にメールで送付をしてほしい。

### 【座長】

それでは、小中学校におかれては校長・副校長宛にメールで提出依頼させていただく。

### 【清水委員】

なるべく、校長・副校長宛に同じ文面のメールを送付してほしい。

### 【中原委員】

青少対は、2月2日の役員会でCブロックのメンバーが集まる。そこで提出依頼のお願いをする。

→委員から意見等なし。

## 情報提供

### (1) 最近の青少年の非行情勢について

高尾警察署生活安全課第一係長 古山委員から口頭説明

### 【古山委員】

八王子市内三署の昨年（平成 28 年）の少年非行の現状について報告する。

平成 28 年における非行少年の検挙件数は 399 件で、前年（平成 27 年）と比較すると、39 名増加している。検挙した非行少年の内訳だが、14 歳以上の犯罪少年は 236 名で、前年より 7 名増加し、13 歳以下の触法少年は 73 名で前年より 14 名増加し、またぐ犯少年（家出・家庭内暴力・金品持出し）は 30 名で、前年より 18 名増加している状況である。全体的に増加傾向であるが、特に触法少年とぐ犯少年による犯罪の増加が目立つ。

触法少年・ぐ犯少年の増加傾向にあっては、規範意識の低下はもちろんだが、保護者の

監護能力の低下も一因だと考えられる。

取扱いの多い犯罪種別は、窃盗（万引き・自転車盗・オートバイ盗）、占有離脱物横領、暴行、傷害となっている。

警視庁全署での昨年（平成 28 年）の少年非行の検挙件数は 5,775 名で前年と比較すると 732 名減少しており、内訳にあつては、14 歳以上の犯罪少年は 651 名減少し、触法少年は 176 名減少し、唯一、ぐ犯少年のみが 61 名増加している。

八王子市内三署における昨年（平成 28 年）の補導少年（深夜はいかい・喫煙・飲酒等）の件数にあつては 1,181 名で、前年より 240 名増加しており、特に高尾警察署管内での補導件数の増加が目立つ。

警視庁全署の補導件数は約 3 万 4 千名で、前年より 4,200 名減少しており、主な補導内容としては、深夜徘徊・喫煙・飲酒・ゲームセンター等の時間外立ち入りである。

次に、スマートフォン普及による問題について報告する。

LINE や Twitter などの SNS を利用して行われる犯罪のうち顕著なのが、援助交際、児童ポルノ、リベンジポルノ、いじめなどである。高尾警察署においても、SNS で知り合った異性に裸画像を送信する児童ポルノ事案、元交際者に裸画像を流出されるリベンジポルノ事案、SNS を利用してのいじめ事案を取り扱っている。

スマートフォンの普及により生活面で便利になった部分があるが、子どもが好き勝手に使用することで、子どものやっていることに対し、大人の目が届きにくくなったことも事実である。

昔は少年同士が面と向かってケンカするといったことがしばしば見受けられたが、現在は、気に入らない者がいれば、グループを作って SNS で相手の知らないところで、悪口を言いながら相手を追い詰めて行くといった陰險なやり方が見受けられる。

スマートフォンの普及にまつわる問題は、学校、関係団体と連携してフィルタリングの必要性について、啓発活動を行うとともに、児童の犯罪や被害防止に役立ててもらいたい。

#### 【内田委員】

警視庁の検挙件数より、八王子管内の検挙件数の方が増加しているというのは事実か。

#### 【古山委員】

増加しているのは事実で、特に高尾管内での補導件数の増加が目立つ。

#### 【清水委員】

学校内では「デレステ」問題が波及している。スマホで操作するゲームなのだが、相当児童に普及している。ゲームをするには、通帳を作る必要がある。またスマホを作業用・売買用・プライベート用と 3 台に分けて「デレステ」を利用している。フィルタリングを用いて解決するレベルではなく、携帯を与えたら残念な事態になると保護者には伝えている。また保護者が事態についていけないという現状もある。テレビでも放映されているのだが、ダウンロードする時にスロットマシンを使って、当たりが出るとレアな物も出てくる。プレーヤーはディレクターとなって、女の子たちを成長させ舞台に上げるのだが、女の子たちを集めるためには何回もスロットマシンを回さないといけない。それには結

構な時間がかかるので、ならば最初から購入しようということで現金が動く。現場・保護者・生活指導のレベルでも、これがどうやったらお金になるのかが掴めていない。ぜひ「LINEで儲ける中学生のアルバイト」で検索してみてほしい。私たちも最新のものは追いつけようがないが、検索すると多くのヒット数が出る。

**【中原委員】**

補導件数が増加しているのは、高尾管内のどのあたりの地域なのか。

**【古山委員】**

城山、四谷、元八王子、長房地区が挙げられる。毎回、別の少年が補導されるというよりは、最近、補導される少年が定着してきている。

**【中原委員】**

そこには青少対など色々な団体関わってくる。元八王子・四谷・横川・城山・恩方地区では、30～40名で月に何回か地域の情報交換を行い、その議題に上がった地域を重点的にパトロールしているが、喫煙している中学生に対して、隠れてたばこを販売する商店が存在する。その店主に未成年への販売停止を求める活動も行っている。何かあればすぐ駆けつけるとも言っている。近隣地区のメンバーで集まり、事態を改善していこうとしている。こうしたパトロールをして差し障りがないか、高尾警察署からの指示は仰いでいるが、もしその件でお話があるなら言っていただきたい。何かありましたら協力しますので、お声掛けください。

**【古山委員】**

城山・横川・四谷・元八王子。この四地域は重点的に注意を向けていく。

**【中原委員】**

小学生の万引きが多くて困っている。保護者の管理能力が低下しているのも現状だろう。是非指導をお願いしたい。

**【福島委員】**

補導された後、少年はどうなるのか。

**【古山委員】**

非行を犯した少年を検挙した際は、検察庁や家庭裁判所に送致し、その後、家庭裁判所において審判が開かれ、審判不開始、不処分、保護観察、少年院送致などの処分が下される。

少年の場合は、健全育成が目的であり、厳罰を与えることが目的ではない。

**【福島委員】**

保護者の対応はどういったものか。

**【古山委員】**

保護者が子供のことを信じることは大切だと思う。しかし、子どもが警察に取り扱われた際など、子どもの言ったことだけを信じ、我が子の非行を認めようとする保護者も見受けられる。

そのような時は、保護者に理解してもらえよう指導している。

**【清水委員】**

学校と警察との相互連携に係る協定書が来ることを理解していない。保護者が開き直っている。

**【清水委員】**

昭和 58 年・59 年には少年を補導するには補導員証が必要だった。補導員証の権限を持って、警察に通報すると補導となる。万が一個人訴訟となった際の事を考えて、青少年対策地区委員会でもこうした知識を得ておいた方がいいのではないか。パトロールをする際に、青少対の中にも、そういった方が何名かいるといいのではないか。ボランティアをやってもらっている中で、大きなことが起きてしまう可能性もあると思う。是非検討いただけたら。

**【中原委員】**

人数が多いと後ろに回られると怖い。「刺されるかもしれない」という恐怖感が生じることもある。

**【清水委員】**

隣の子をシャープペンシルで刺す子もいる。衝動性なのか。そうした事案が増えてきていることも確かだ。またインターネットの普及などで子どもに知恵がついてきているともいえる。

**【中原委員】**

親にもそういった知識がついてきている人もいる。「PTA 役員になったのは、子どもが悪いことをしても許してもらいやすいと思った。」という目的で、役員になった方も明らかにいる。

**【川島委員】**

私は PTA 活動を 3 年前から初めて行っているが、PTA 連合会には気持ちの良い方たちが集まっている。損得や利害関係を考えたり、効率を目指すのが一つの世間の流れだと思うが、学校と関わる取組では無駄な時間も無駄ではない。何も生まない時間も必要なのではないか。PTA 活動もそうした余裕を持ちながらできればよいと思っている。保護者の教育もあきらめずに進めていければよいと考えている。

**【座長】**

教育、そして連携は必要なことだと考えている。皆様ありがとうございます。

## (2) 第2回 中学生ミーティングについて

### 【加地委員】

1月21日に第2回中学生ミーティングを開催した。代表校の134名が参加。佐藤統括はじめ、教育委員会の皆様に協力いただき準備を行った。残念ながら来場者は去年よりも減少した。学校公開と日程が重なったため、小学校関係者の来場が少なかったと考えられる。現世代の保護者の参加が少ないのが残念だった。小学生の参加によって場が和やかになり、その発言には笑いがこぼれた。小学生・中学生・保護者の討論は面白く、笑いありの中学生ミーティングとなった。一番参加してほしい層に来てもらえなかったので、今後も周知を行いたいと考えている。高尾警察署の情報提供にもあったように、スマホ関連は保護者等にご理解いただかなければならないと思いますので、各機関の協力もいただきつつ、第3回の開催につなげたい。

### 【川島委員】

初めて小学生が参加した。2校、計6名の参加だった。初めは議論ができるかが不安で、事前にテーマに沿って作文を書いてもらった。中学生に負けるとも劣らない、しっかりとした意見を持った子どもが多く、見ていて面白かった。中学生も自分の意見を持っている子どもが多かった。具体的に言えば、「スマホは解約しました」「大人にとやかく言われたくない。自分で携帯電話は管理する」など、自分で判断し、手を挙げるような意見を持った子もいた。逆に子どもから見て、大人の携帯電話の使い方はどうなのか、というような意見も出た。ある中学校では、新入生の保護者説明会で子どもから親に説明をしている。親の立場からすると、子どもから親に説明をすると一番堪えるものがあると思う。難しいと思うのだが、SNSとスマホの使い方は異なる。私が子どもだった頃は、音楽を聴くならウォークマンを使うが、今は音楽・ゲームも全てスマホを使用する。うちの子どもは、スマホの画面を静止画にしてスケッチにする。それはスマホの利用時間となるのかという問題があるのだが、その線引きは難しい。

### 【清水委員】

私も参加したのだが、ミーティングの最後に「スマホは親が買ってあげたもの」という説教に聞こえかねない発言があった。そこは今後の課題だと感じた。これでは子どもが参加したいと思わなくなるのではないだろうか。親の考えよりも子供の考えに重点を向けるべきではないのかと感じた。子どもが子どもを変えていくという中学生ミーティングの主題は良い。今回はそこに立ち返る必要があると感じた。また、保護者の問題として2〜3歳の子どもにこれで遊びなさいとスマホを渡すケースもある。それで会話を作ろうとするのはどうか。そういった時代になってしまったのだろうか。

## (3) その他

### 【平塚委員】

今後の青少年問題協議会を考える上で、ヒントやキーワードになりうるお話をさせてもらえれば。「子どもにやさしいまち」という考えがある。子どもの権利条約を実現するために、ユニセフが作成したもので、国際的な考えとなる。子どもの権利というと、子どもの

甘やかしにつながるという誤解がある。しかし、各国の子どもを取り巻く課題を解決するために、この概念は研究されている。八王子市では社会福祉審議会にて、子どもにやさしいまちづくり部会を立ち上げている。青少年を取り巻く課題の解決について、「子どもにやさしいまちづくり」という考え方は参考になると考える。一つの例が、子どもの意見を尊重して、子どもと一緒に街づくりに参画することで、子どもにやさしいまちを作り上げていくという手法だ。これは、「子どもにやさしいまちづくり」の大きな核となっている。中学生ミーティングがまさに当てはまる。清水校長がおっしゃっていたように、大人の受け止め方が課題となる。もうひとつ、遊びの場がないことがゲームの話につながってくる部分がある。この問題を解決するためには、「子どもにやさしいまちづくり」、この視点はヒントになると確信しながら話を聞いていた。

#### 【川島委員】

他には具体的に動いている話があるのか。

#### 【平塚委員】

児童青少年課の子ども意見発表会が該当する。八王子市で数十年続いており、子どもの遊び場・居場所づくりなどを市長・教育長に発表する取組だ。街づくりの施策に生かしていく取組を目指している。一昨年、商店街の活性化について発表した子どもが居たが、教育長が商店連合会の会長・副会長との懇談機会を設けた。市の審議会でも、八王子にふさわしい取組を研究中だ。最後に情報提供になるが、100周年記念事業としていちょうホールで、ビジョンフォーラムを開催する。フォーラムの議題である8つのテーマ全てに、子どもの意見を取り入れようとしている。八王子市として、その方向性を進めている。

#### 【川島委員】

以前プロ野球のOB会の方が式分方小にいらっしゃった時、小学5・6年生はボールを投げられない。かなりの確率で右手と右足も一緒に出る。ボールを投げる場所もないというのもある。外で遊んで家に帰れば、疲れてしまってゲームどころではないだろう。

→その他、委員から意見等なし。

### 第156回協議会の開催について

事務局より説明

日時 平成29年2月23日(木) 午前10時～12時 市役所7階702会議室